

## 協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 050

(2022/23年度 USDA米国農務省 9月12日発表)

[ハイライト]

## ① 現状の世界穀物市場は大豆を除き小康状態だが、世界的異常気象により産地別作柄状況は悪化の気配

ロシアのUKR侵攻に端を発したシカゴ相場の歴史的な高騰は、ここにきて小麦は8ドル/bu、コーンは6ドル半ばと騰勢が一服した形だが、産地により早魃/洪水等の異常気象により作況が悪化。特に北米（米国）/フランス・イタリア等のEU諸国/中国南部等にその被害が拡大。その結果、米国はコーンが7月以降14百万ト急減（368⇒354）/大豆4百万ト減（123⇒119）。EUはコーン9百万ト急減（68⇒59）/小麦は2百万ト減（134⇒132）と影響が拡大している。

## ② UKRは「黒海回廊」開始以来9月初旬迄210万トの穀物輸出、今後の輸出拡大と協定期間延長は微妙

UKRは7/22「黒海回廊」合意以来、8/1の第一船から9/6までコーン中心に約210万トが船積された。主な仕向地はトルコ/スペイン/エジプト等。その他に鉄道輸出で7月91万ト/6月81万トの報告。USDAは同国の小麦/コーンの生産/輸出見通しを別表の通り発表したが前年比まだ6割程度に留まっている。協定積出港はオデーサ/ウジニ/チェルノモルシクの3港。有効期間は120日、ロシアは自国の輸出が阻害されているとしており協定延長なるかは微妙。

## ③ 世界的な7月FAO指数は若干下落したが、国内食品価格値上げラッシュは当分留まりそうにない

7月「FAO食料価格指数」は前月比穀物（166⇒147）/植物油（212⇒171）/乳製品（150⇒146）となり全体では154⇒141となった。国内では小麦の10月政府売渡価格据置（約2割抑制）や配合飼料安定基金助成等があるが、9月は食料品2,400品目/10月は6,500品目の値上が発表され円安も急で値上ラッシュは留まりそうにない。総務省7月「消費者物価指数」（R2=100）は食パン111.9/食用油145.8/チーズ106.2とFAOとの乖離は大でマグマが溜まっている。

## 1、世界穀物需給の概要（大豆を除く）

① 生産量：	2,756百万ト	（前年比1.4%	減 ↓	、	前月比0.2%	減 ↓
② 消費量：	2,783百万ト	（前年比0.7%	減 ↓	、	前月比0.0%	⇒
③ 貿易量：	489百万ト	（前年比3.5%	減 ↓	、	前月比0.6%	減 ↓

## 2、とうもろこし

① 生産量：	1,173百万ト	（前年比3.9%	減 ↓	、	前月比0.6%	減 ↓
② 消費量：	1,180百万ト	（前年比1.7%	減 ↓	、	前月比0.4%	減 ↓
③ 貿易量：	181百万ト	（前年比9.7%	減 ↓	、	前月比1.1%	減 ↓

④ 概況：世界生産量は、米国/EUの熱波により単収/収穫面積が引き下げられ米国は前月比約1千万トの大幅減、EUも百万ト超減産。他方、中国/UKRで5百万ト近い増産となったが全体では7百万ト減少。消費量は米国の飼料需要減等から前月比4百万ト減。貿易量は米国が3百万ト近く減少、全体では2百万ト減少。UKRは生産/輸出货量とも別表の通り百万ト前後増。期末在庫305百万ト/在庫率26%。うち中国は前月比3百万ト増加し207百万ト（68%）

⑤ 価格： **\$6.69/Bu** （前年\$5.08/Bu / 前月\$6.10/Bu）と前月比\$0.59 上昇。

## 3、小麦

① 生産量：	784百万ト	（前年比0.5%	増 ↑	、	前月比0.6%	増 ↑
② 消費量：	791百万ト	（前年比0.5%	減 ↓	、	前月比0.3%	増 ↑
③ 貿易量：	209百万ト	（前年比2.8%	増 ↑	、	前月比0.1%	増 ↑

④ 概況：世界生産量は、ロシアが前月比3百万ト増加し史上最高の91百万ト。全体でも784百万トと記録更新している。消費量は前月比ロシア/EUで増加し堅調。貿易量も2億ト台を維持している。UKRは生産百万ト増の20.5百万ト。輸出11百万ト据置。期末在庫は269百万ト/在庫率34%。うち中国144百万トと変わらず（54%）

⑤ 価格： **\$7.93/Bu** （前年\$7.15/Bu / 前月\$7.76/Bu）と前月比\$0.17 上昇。

## 4、大豆

① 生産量：	390百万ト	（前年比10.3%	増 ↑	、	前月比0.8%	減 ↓
② 消費量：	378百万ト	（前年比4.1%	増 ↑	、	前月比0.2%	減 ↓
③ 貿易量：	168百万ト	（前年比9.5%	増 ↑	、	前月比0.7%	減 ↓

④ 概況：世界生産量は、米国が熱波の為4百万ト減産となったがBRAが149百万トの豊作、全体では史上最高収量見通し。消費量は米国が若干減少したが中国は堅調。貿易量は168百万トと前月比微減したが前年比では10%近く伸び史上最高見通し。期末在庫は99百万ト/在庫率26%。うちBRA29/ARG25/US5百万トでUSはほぼ売り切り状態。

⑤ 価格： **\$15.11/Bu** （前年\$12.83/Bu / 前月\$16.15/Bu）と前月比\$1.04 下落。

# 世界の穀物・大豆等の需給

2022年9月12日  
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給							
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量	
全穀物	2019/20	2,725	3,543	488	2,741	801	
	2020/21	2,801	3,602	509	2,803	799	
	2021/22	8月	2,762	3,561	492	2,783	778
	2022/23	9月	2,756	3,555	489	2,783	772
小麦	2019/20	775	1,073	203	782	291	
	2020/21	780	1,070	203	795	276	
	2021/22	8月	780	1,056	209	789	267
	2022/23	9月	784	1,060	209	791	269
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2019/20	1,441	1,779	233	1,456	323	
	2020/21	1,506	1,829	251	1,490	339	
	2021/22	8月	1,469	1,808	228	1,476	332
	2022/23	9月	1,464	1,802	226	1,473	330
米	2019/20	509	692	51	504	188	
	2020/21	515	703	55	518	185	
	2021/22	8月	512	697	55	519	179
	2022/23	9月	508	693	54	519	174
大豆	2019/20	368	463	165	363	100	
	2020/21	353	453	153	364	90	
	2021/22	8月	393	483	169	378	104
	2022/23	9月	390	479	168	378	102

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	8月	311.84	1,179.61	179.78	1,184.77	185.62	306.68
	9月	312.14	1,172.58	178.25	1,180.18	183.58	304.53
アメリカ	8月	38.86	364.73	0.64	308.62	60.33	35.27
	9月	38.73	354.19	0.64	304.81	57.79	30.95
アルゼンチン	8月	1.49	55.00	0.01	14.00	41.00	1.49
	9月	1.49	55.00	0.01	14.00	41.00	1.49
ブラジル	8月	4.65	126.00	1.30	77.00	47.00	7.95
	9月	4.65	126.00	1.30	77.00	47.00	7.95
EU	8月	8.66	60.00	19.00	77.40	2.70	7.56
	9月	9.66	58.80	19.00	77.40	2.70	7.36
日本	8月	1.38	0.01	15.20	15.20	0.00	1.39
	9月	1.38	0.01	15.20	15.20	0.00	1.39
中国	8月	210.24	271.00	18.00	295.00	0.02	204.22
	9月	210.24	274.00	18.00	295.00	0.02	207.22
ロシア	8月	0.93	15.00	0.05	11.20	4.00	0.78
	9月	0.93	15.00	0.05	11.20	4.00	0.78
ウクライナ	8月	6.27	30.00	0.00	11.70	12.50	12.07
	9月	5.57	31.50	0.00	12.70	13.00	11.37

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	8月	89.73	392.79	166.22	378.25	169.08	101.41
	9月	89.70	389.77	165.02	377.68	167.88	98.92
アメリカ	8月	6.13	123.30	0.41	64.53	58.65	6.66
	9月	6.53	119.16	0.41	63.91	56.74	5.44
アルゼンチン	8月	22.45	51.00	4.80	48.25	4.30	25.70
	9月	22.55	51.00	4.80	48.25	4.70	25.40
ブラジル	8月	22.71	149.00	0.75	53.60	89.00	29.86
	9月	22.46	149.00	0.75	53.85	89.00	29.36
中国	8月	30.74	18.40	98.00	115.59	0.10	31.46
	9月	30.74	18.40	97.00	115.59	0.10	30.46
EU	8月	1.13	2.57	15.20	17.53	0.22	1.15
	9月	0.93	2.60	14.80	16.78	0.22	1.33

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	8月	276.35	779.60	203.89	788.60	208.65	267.34
	9月	275.67	783.92	204.14	791.02	208.89	268.57
アメリカ	8月	17.96	48.52	2.99	30.43	22.45	16.60
	9月	17.96	48.52	2.99	30.43	22.45	16.60
アルゼンチン	8月	1.78	19.00	0.01	6.35	13.00	1.43
	9月	1.78	19.00	0.01	6.35	13.00	1.43
オーストラリア	8月	3.46	33.00	0.20	8.55	25.00	3.11
	9月	3.50	33.00	0.20	8.55	25.00	3.15
カナダ	8月	3.42	35.00	0.60	9.10	26.00	3.92
	9月	3.67	35.00	0.60	9.10	26.00	4.17
EU	8月	13.08	132.10	5.50	107.00	33.50	10.18
	9月	13.43	132.10	5.50	108.00	33.50	9.53
中国	8月	141.76	138.00	9.50	144.00	0.90	144.36
	9月	141.76	138.00	9.50	144.00	0.90	144.36
インド	8月	19.50	103.00	0.03	104.50	6.50	11.53
	9月	19.50	103.00	0.03	104.50	6.50	11.53
ロシア	8月	12.09	88.00	0.30	44.00	42.00	14.39
	9月	11.09	91.00	0.30	45.00	42.00	15.39
ウクライナ	8月	5.84	19.50	0.10	10.20	11.00	4.24
	9月	5.81	20.50	0.10	10.70	11.00	4.71

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

# 世界の食品産業と穀物需給(6)

① 先月は世界の穀物消費量の2030年予測を小麦など各品目別/地域別に全体像と特徴について見たが、今回はその穀物の2030年における「一人当たり総消費量」の地域別見通しと穀物需要拡大のベースである畜産物消費との関係を見てみたい。まずは[表1]にあるように2030年一人当たり穀物消費量は基準年(2017-19年)344kg比10kg増加し354kg。これを2030年世界人口予測85億人(図1)で見るとその総消費量は26.1⇒30.1億トと大台に乗り穀物史上新たなステージを迎えたとも言える。この穀物消費増の背景は、先月号表1でも触れた①人口増と糖類/油脂など穀物用途の多元化による「食用」需要増+14% (14.9⇒17.0億ト)、②経済発展と肉類需要拡大等による「飼料用」需要増+19% (9.7⇒11.5億ト)の2点である。

② この一人当たり穀物消費量の2030年予測を地域別にみると、北米1.041kgとアフリカ205kgは何と5倍の格差があるが、その要因はまさに人口増の中で「食用」需要を優先せざるを得ないアフリカと比べ食用はもろ畜産物生産拡大による飼料需要の底上げ、肉類/乳製品/飲料/酒類等の食品産業の多様化、かつエタノール生産など広範な穀物需要がある北米との違いがこの格差を生み出している。他の地域を見ると、中東は乾燥地帯の為穀物生産は限定的で畜産物は輸入に頼らざるを得ず一人当たり穀物消費量は基準年比103% (11kg増)の384kgと相対的に低い。BRA/ARGを含む中南米は、大穀物生産地あると同時に畜産物輸出基地として飼料用需要急増が予想され基準年比108% (29kg増)の約400kgを予想。ロシア/UKRを含む欧州は飼料用穀物需要増と総人口の減少の為一人当たり需要は基準年比110% (53kg増)と大幅に増加し約570kg。注目のアジアは、中国/インドの総人口が2030年には其々14.3/15億人となり食用だけではなく畜産物需要増に伴う飼料用穀物需要が増加するため消費量は基準年比107% (21kg増)の305kgと中南米/欧州に次ぐ増加見通しである。

③ 次にこれを一人当たり「肉類消費量」で表したのが[表2]である。2030年肉類消費量は基準年比106% (2.1kg増)の40.1kg。この数字の地域別/国別格差は極めて大きくまたその伸び率は経済発展の著しいアジア(中国/インド)において顕著である。北米/オセアニア消費量はともに120kg前後で飛び抜けているがこれは有数の穀物生産地であると同時に食肉価格が安価で多様な畜産加工製品が存在している結果と見ることが出来る。逆に際立って一人当たり消費量が低いのはアフリカ8.8kg/インド7.7kgであり北米/オセアニアとの格差はあまりにも大きい。これはアフリカでは穀物を「食用」優先にせざるを得ずかつ人口伸び率が高いことの帰結であり、インドは宗教的に牛肉始め肉類が忌避され牛乳/野菜中心の食生活が基本であることと人口急増が一人当たり消費量低減の要因となっている。[図1]の通り世界人口は75.9⇒85.0と約9億人増加するが、うち途上国が63.3⇒72.2億人とその大半を占めている。

④ あとは前項の背景となる畜種別消費量見通しと純輸出量はどうか？まず牛肉の2030年全体見通しは、[表3]の通り生産/消費量とも基準年比約1千万ト増加し71百万ト。注目は中南米の消費量増とそれを更に上回る生産/輸出量の伸びである。特に純輸出量は世界最大440万ト (BRA310/ARG80万ト) となりアジア/中東等の消費拡大を支える構図となっている。そのアジアは消費量が550万ト (中国250/インド100万ト) 増加見通し。豚肉は[表4]にある通り世界生産/消費量とも17百万ト伸び128百万ト見通し。その消費量伸びの大半はアジア(+12百万ト)であり、特に中国は9百万ト増の61百万トと世界消費量の約50%を占める構図は変わらない。鶏肉は[表5]の通り生産/消費量とも21百万ト急増し豚肉に迫る121百万トの見通し。その中でBRAは生産を大幅に拡大し輸出量620万トとアジア/中東等の消費増を吸収している。以上世界の肉類生産/消費を総括すると消費拡大するアジア/中南米等の胃袋を主に北米/南米 (BRA・ARG)/欧州が支えるという構図が浮かび上がり、穀物ドライブルク同様に海上コンテナ荷動きを拡大する要因であることは間違いない。(続く) ※資料出所：農林水産政策研究所「2030年における世界の食料需給見通し」

【表1】 一人当たり穀物総消費量 予測結果

	基準年(2017-19年)		目標年(2030年)		差異
	実数	指数	実数	指数	
	(単位: kg)				
世界合計	344.1	100.0	354.1	103.0	10.0
北米	1063.6	100.0	1041.6	98.0	-22.0
中南米	369.7	100.0	398.7	108.0	29.0
オセアニア	574.2	100.0	582.6	101.0	8.4
アジア	284.1	100.0	304.8	107.0	20.7
中東	372.2	100.0	383.6	103.0	11.4
欧州	515.6	100.0	569.1	110.0	53.5
アフリカ	212.6	100.0	205.7	97.0	-6.9
(参考)					
中国	407.2	100.0	446.0	110.0	38.8
インド	178.3	100.0	193.8	109.0	15.5
ロシア	483.7	100.0	542.8	112.0	59.2
ブラジル	429.7	100.0	493.9	115.0	64.2

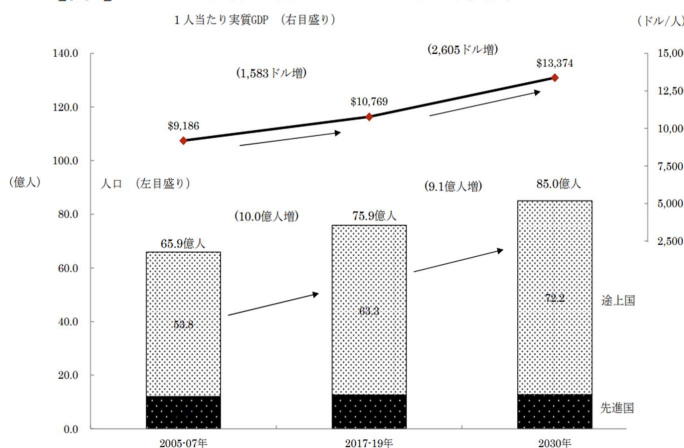
【表2】 一人当たり肉類消費量 予測結果

	基準年(2017-19年)		目標年(2030年)		差異
	実数	指数	実数	指数	
	(単位: kg)				
世界合計	38.0	100.0	40.1	106.0	2.1
北米	115.9	100.0	118.6	102.0	2.7
中南米	66.0	100.0	67.7	103.0	1.8
オセアニア	118.7	100.0	120.9	102.0	2.3
アジア	29.8	100.0	34.6	116.0	4.9
中東	25.1	100.0	26.6	106.0	1.5
欧州	74.8	100.0	81.2	109.0	6.4
アフリカ	8.9	100.0	8.8	99.0	-0.1
(参考)					
中国	55.9	100.0	66.7	119.0	1.9
インド	5.8	100.0	7.7	132.0	1.9
ロシア	70.8	100.0	77.4	109.0	6.6
ブラジル	99.5	100.0	106.6	107.0	7.1

【表4】 豚肉に関する地域別予測結果

	生産量		消費量		純輸出(入)量	
	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年
	(単位: 百万トン)					
世界合計	111.3	127.9	111.3	127.9	0.0	0.0
北米	14.0	15.5	10.8	11.6	3.2	4.4
中南米	7.3	9.4	7.7	8.7	-0.4	0.6
オセアニア	0.5	0.5	0.7	0.9	-0.3	-0.4
アジア	60.3	70.1	65.4	77.8	-5.1	-7.7
中東	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
欧州	28.6	31.6	25.9	28.0	2.7	3.6
アフリカ	0.7	0.8	0.8	1.0	-0.1	-0.2
(参考)						
EU	23.9	26.2	20.9	22.6	3.0	3.6
米国	12.0	13.1	9.8	10.6	2.2	2.6
カナダ	2.0	2.4	0.9	1.0	1.0	1.4
ブラジル	3.8	5.2	3.0	3.2	0.8	1.7
中国	50.4	58.4	52.2	61.4	-1.8	-3.0

【図1】 世界の総人口と1人当たり実質 GDP



【表3】 牛肉に関する地域別予測結果

	生産量		消費量		純輸出(入)量	
	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年
	(単位: 百万トン)					
世界合計	61.7	71.4	61.7	71.4	0.0	0.0
北米	13.5	14.7	13.6	14.7	-0.1	0.0
中南米	17.5	20.7	14.5	16.3	3.0	4.4
オセアニア	3.0	3.5	0.8	1.0	2.1	2.5
アジア	15.0	18.5	18.3	23.6	-3.3	-5.3
中東	0.6	0.7	1.3	1.6	-0.7	-0.9
欧州	10.1	10.9	10.6	10.8	-0.5	0.1
アフリカ	2.0	2.4	2.5	3.3	-0.5	-0.9
(参考)						
インド	4.2	5.1	2.6	3.6	1.6	1.5
ブラジル	9.9	12.0	7.9	8.9	2.0	3.1
豪州	2.3	2.7	0.7	0.9	1.6	1.8
中国	6.5	8.0	8.3	10.8	-1.8	-2.8
米国	12.2	13.2	12.5	13.5	-0.3	-0.3

【表5】 鶏肉に関する地域別予測結果

	生産量		消費量		純輸出(入)量	
	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年
	(単位: 百万トン)					
世界合計	99.5	121.0	99.5	121.0	0.0	0.0
北米	20.7	23.3	17.6	19.8	3.1	3.6
中南米	21.8	27.5	19.7	22.1	2.1	5.4
オセアニア	1.4	1.7	1.4	1.6	0.0	0.0
アジア	30.7	38.8	32.8	44.6	-2.1	-5.8
中東	3.5	4.8	5.5	6.9	-2.0	-2.2
欧州	18.7	21.3	18.0	20.0	0.7	1.4
アフリカ	2.8	3.6	4.6	6.0	-1.8	-2.4
(参考)						
ブラジル	13.6	17.5	9.8	11.4	3.8	6.2
米国	19.4	22.0	16.3	18.3	3.1	3.7
EU	12.2	13.7	11.7	13.0	0.6	0.8
中国	12.4	15.4	12.4	16.6	-0.1	-1.3
インド	4.1	5.5	4.1	6.1	0.0	-0.7